

ランチタイムミーティング

音の出口

(スピーカーの配置、共演者・聴衆の聞こえ方)

森松慶子

ランチタイムミーティング開催にあたって、同じタイトルのポスターセッションを、ランチタイムミーティングの告知と問題意識の共有を兼ねて行った。ポスターセッションの掲示物兼ランチタイムミーティングの話題とした資料は以下のようなものであった。

音の出口

スピーカーの配置、共演・聴衆への聞こえ方

*学会誌第10号参照

貼り出してある“お題”で気になるものがありましたら

立ち話にお付き合いください！

☆聴き手の耳に届くまでが“演奏”

☆音楽的な音量バランスは、

演奏家自身が状況を把握し、コントロールしたい

☆折角の生演奏なら、奏者も聴衆も、ひとつながりの音響空間にいて時空を共に

☆スピーカーの音の方が

生楽器の音よりいつも大きいわけでもない！？

☆間接音って大事だ、と今更ながらに気がついた

☆電子楽器以外の共演者ともよくコミュニケーションをとって、一緒に響きを作ろう

☆それぞれのひとが個々に工夫していることを共有できたらいいな

等々、現在進行形で試行錯誤中の素材で

お店を広げております

足を止めていただいた方々にも

いろいろ教えて頂ければ大変ありがたいです。

同じテーマで

ランチタイムミーティング

も開催致しますので、

(3階音楽教育講義室1

=電子orgパネルディスカッション部屋)

よろしかったらお弁当お持ちになってお越しください

森松慶子

開催場所は、午後電子オルガン部会のパネルディスカッションが行われる部屋としていたが、当日の会場の都合からか全体の昼食会場にもなっていて、大方の方が食事を終えて部屋が空き始めてからスタートしたため時間が十分にとれなかったのが少々残念であった。開催場所確保と確認は、この種類の比較的気楽な会合には不可欠であると、これは次回への教訓である。

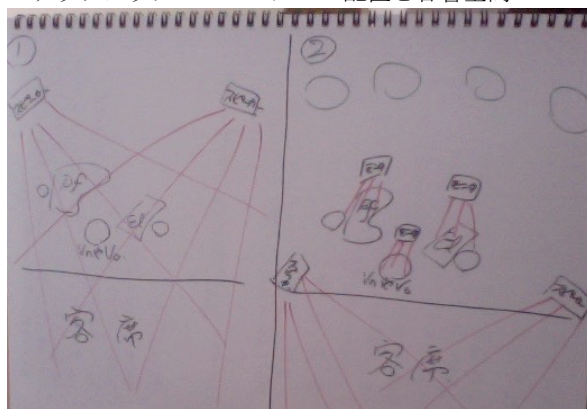
ミーティングには、事前のSNSでの告知やポスターセッションなどを見た方、お弁当を食べながら、たまたま話が耳に入って「関心あり！」と加わってくださった方など、8名でのミーティングとなった。

それぞれに自分自身の演奏活動をしていたり、生徒の発表会で自分自身が楽器や音響機器をセッティングする指導者であったりする中で、各々のセッティングについての疑問や試行錯誤に関して話をすることがで

きた。

また、PAを演奏者自身が行うメリットとその場合の課題、PAを演奏者以外の人に任せる場合のメリットとデメリット、奏者はモニタースピーカーからの音を聞いて聴衆はメインスピーカーからの音を聞くPA方式と、奏者も聴衆も同じスピーカーからの音を聞くPA方式それぞれの意味合いや特徴について、写真のようなスケッチブックにその場でどンドン図を描きながら、フランクな形で話を進められたのは、きちんとしたスライドに基づいての発表とは違う臨場感や気安さがあり、この種のスタイルの会合の良さでもあったと感じた。

スケッチブック：スピーカーの配置と音響空間



ミーティングの最後には、スケッチブックに参加者の名前、普段からこのテーマについて考えていること、連絡先などをサイン帳のように記していただいた。今後、今回同様気軽にお互いの事情や考えを述べ合える雰囲気や大事にしながらワークショップのような形でノウハウを共有、蓄積していければと考えている。

